

町田市的生活・産業、2028年はこうなっている！？

国の未来投資戦略等示された今後の目指すべき姿や、本市の現状に基づき、以下の通り **12の要素**を通じて「2028年の町田がどのようになっているか」という将来像を考えました。

【要素①：AI やロボットが人間の仕事を代替している】

- ・ 仕事に追われていた人が、まちなかや家で余暇を楽しむ時間ができる。
- ・ 場所を問わずにできる創造的な仕事、新しい仕事をする人が増えている。
- ・ 事業者はラインの効率化ができ、新商品開発などのイノベーションがさらに促進されている。
- ・ 単純労働（事務仕事）の求人倍率がさらに低下し、市内の既存の仕事が減っている。

【要素②：第四次産業革命・物流機能がさらに進展している】

- ・ 遠隔医療の活用などにより、健康寿命が延びる、高齢者が病院に行く必要がなくなる（＝新たな溜まる場所ができる）などの現象が生まれている。
- ・ 都市近郊である町田市で生産される農産物の付加価値が向上し、農商工連携によるイノベーションが促進されている。
- ・ ドローン宅配を活用する人が増え、渋滞が解消されたり、個店で消費をする人が減少したりしている。

【要素③：自動運転技術が格段に向上している】

- ・ 市内の基幹交通であるバス網の輸送能力が増強され、車を持たない人がさらに増えている。駅前の民営駐車場も年々減り続けている。
- ・ 高齢者や女性など、家にこもりきりだった人がまちなかに出て活動するようになっている。
- ・ 車を運転する人も、移動時間を余暇に充てることができるようになっている。

【要素④：モノレール・小田急多摩線延伸に向けた動きが加速している】

- ・ モノレール導入路の整備が進み、町田街道と並ぶ東西の動線ができ渋滞が緩和されている。
- ・ 駅の整備予定地周辺は将来を見越して人口が増え、商業・ビジネスの集積も始まっている。

【要素⑤：リニア中央新幹線が開業している】

- ・ 橋本駅を中心として、相模原に新たな商業・ビジネス集積が生まれ、町田市を含む周辺を生活拠点とする人が増えている（＝人口が増えている）。
- ・ 新横浜駅との中間地点として、また新宿や品川への拠点として町田市を宿泊地に選ぶ人が増えている（＝ナイトタイムエコノミーを楽しむ人が増えている）。

【要素⑥：南町田駅周辺は副次核として発展し、人口や来街者が伸び続けている】

- ・ 渋谷へのアクセスの良さを活かし、シェアオフィスやコワーキングスペースなど、起業やイノベーションの拠点となっている。

**【要素⑦：団地活用をきっかけとした、新たなまちづくりが進んでいる】**

- ・団地を活用した既存の住民（おもに高齢者）と外から来た学生の交流が進み、まちに愛着が湧いて町田に住み続ける学生が増えている。
- ・学生を中心としたイノベーションゾーンが出来上がり、団地の空室等を拠点とした新たなビジネスが生まれている。
- ・学生の確保に苦しむ大学は、校舎の集約化を進めており、都心回帰が一層進んでいる。

**【要素⑧：オリンピック・パラリンピックのレガシーや文化芸術ホール等を活かし、文化・スポーツがさらに生活に根付いている】**

- ・ゼルビアの J1 昇格、観客数増加、鶴川駅周辺の再開発に伴い、商業・ビジネスエリアとしての鶴川のポテンシャルが向上している。
- ・文化芸術ホールや国際工芸美術館の整備をきっかけに、中心市街地がさらに活性化し、回遊性や賑わいが生まれている。

**【要素⑨：多様な働き方（特に女性、高齢者）が生まれている】**

- ・子育て世代への支援が拡充されており、子どもとゆっくり触れ合う時間を楽しみながら、テレワークやシェアオフィスで企業の一員として働いたり、クラウドソーシングに寄与したりして、時間や場所にとれわれず仕事を続けている。
- ・企業を退職した方や、副業を希望する人の新規起業が活性化しており、相互の連携や既存企業との連携を通じてイノベーションが活発になっている。

**【要素⑩：仕事の効率化、移動革命などで、余剰時間が格段に増える】**

- ・市民が単なる買い物だけでなく、体験などを通じた時間の消費（コト消費）志向がさらに強まっている（＝ショッピングモール志向が弱まっている）。

**【要素⑪：キャッシュレス化が企業間取引や人々の生活に根付いている】**

- ・仮想通貨の活用、クラウドファンディングなど、事業者の資金調達方法が、金融機関借り入れから、大きく変わっている。
- ・精算時の効率が上がることにより、より多くの顧客対応が可能となっている。
- ・外国人旅行客が訪れやすいまちとなり、まちなかの賑わいや新たな観光ビジネス（民泊、通訳ガイド等）が生まれている。
- ・キャッシュレス化の導入が遅れている事業者は、新規顧客をつかめずに衰退局面にある（＝全社的な導入が可能な大資本がさらに有利になっている）。

**【要素⑫：モノを保有しない文化＝シェアリングエコノミーが進展している】**

- ・キャッシュレス化と連動しながら、移動手段（自転車や車）、服飾品、スペース（公共の未・低利用地含む）、仕事（家事、子育てなど含む）等を市民が共有しながら生活している。
- ・市民が活用するサービスのみならず、事業者の保有するモノ（機械、技術者、システム、製造ラインなど）・コト（ノウハウ、特許、製造手法など）のシェアも進み、効率化が進んでいる。
- ・モノではなくサービスを提供する企業が増えている（GE はジェットエンジンそのものではなく、飛行距離に応じて料金を取っている）。